

「とちまる 6 次産業化成長応援ファンド」の第 2 号案件への出資決定について

足利銀行（頭取 松下 正直）と株式会社農林漁業成長産業化支援機構、栃木県内信用金庫・信用組合、株式会社みずほ銀行、みずほキャピタル株式会社が平成 25 年 9 月に設立した「とちまる 6 次産業化成長応援ファンド」は、当ファンドの第 2 号案件として「もったいねーべ株式会社」に対し出資を行うことを決定しましたのでお知らせいたします。

当行は、引き続き 6 次産業化による地域経済活性化ならびに地域の雇用創出に向けて積極的に取り組んでまいります。

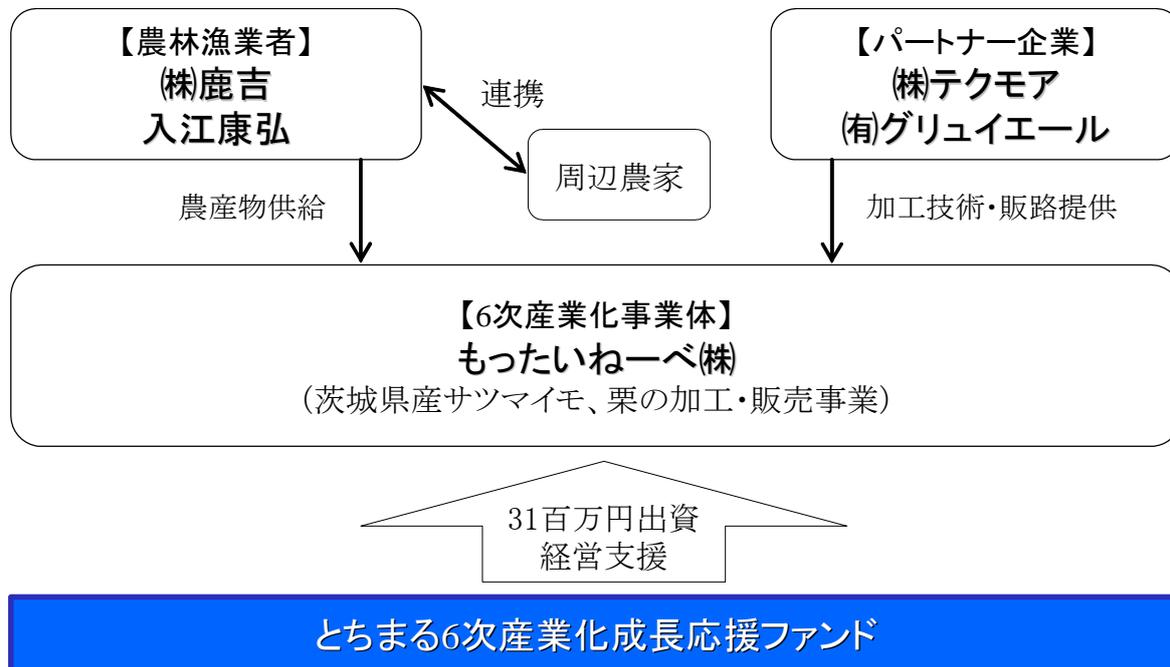
1. 出資案件の概要

出資先名	もったいねーべ株式会社※1
代表取締役	稲田正行
所在地	茨城県水戸市住吉町 279 番地
設立年月日	平成 26 年 12 月 11 日
出資決定額	31 百万円
事業内容	(1) 茨城県産の未利用（B 級品）サツマイモを主原料とする干し芋の通年製造・販売事業 (2) 茨城県産のサツマイモ、栗（B 級品含む）を主原料とする加工品（ペースト、むき栗）の通年製造・販売事業
事業コンセプト	(1) 畑で生産されたサツマイモや栗を、規格外や傷があるもの（B 級品）も含め全て買い取り（畑丸ごと買い）、従来ほとんど収入にならなかった B 級品を加工品として活用し、生産者の所得向上ならびに生産量の拡大に伴う地域活性化に貢献する。 (2) 保管庫や減圧乾燥機※2 等の設備を導入することにより、従来「冬の食べ物」として季節が限定的な干し芋を、年間を通じて製造し安定供給を図ることで新たな市場を拡大し、特産品の地域ブランド向上に貢献する。 (3) テクモアの関連会社（テクモアファーム）やグリュイエール（茨城県を代表するパティシエが経営する有名洋菓子店）の販路を活用し、農産物加工品を卸・小売事業者や一般消費者へ供給する。

※1 合弁会社の「もったいねーべ」という名前は、生産したサツマイモや栗のうち 3～4 割は規格外や傷等で B 級品扱いとなり、ほとんど生産者の収入にならないこと、および茨城県の特産で全国 1 位の生産量を誇る干し芋は冬季のみの生産・供給となっており、マーケットが限定されていること等、「もったいない」現状を改善したいとの思いが込められたもの。

※2 「減圧乾燥機」は、庫内を減圧し水分の蒸発を高めると同時に、電気ヒーターによる暖気を循環させることにより、乾燥を短時間で行うことができる装置。高い水分蒸発力を持ち、乾燥ムラや変形が起きにくく、低温乾燥のため省エネルギーで安全性が高い等の特徴がある。

2. ビジネスモデル図



以上

<参考>

「とちまる6次産業化成長応援ファンド」の概要

1. ファンド名 とちまる6次産業化成長応援ファンド
(正式名称：とちまる6次産業化成長応援ファンド投資事業有限責任組合)
2. 設 立 日 平成25年9月27日
3. 規 模 20億円
4. 運 営 会 社 みずほキャピタル株式会社(無限責任組合員)
5. 出 資 者 株式会社足利銀行(有限責任組合員)
株式会社農林漁業成長産業化支援機構(有限責任組合員)
栃木県内信用金庫・信用組合(有限責任組合員)
株式会社みずほ銀行(有限責任組合員)
6. 出 資 対 象 農林漁業者と2次、3次産業の事業者(パートナー企業)が
共同で設立する6次産業化事業体(合弁会社)

